

等々力緑地の現状と課題

2020年3月

目次

1. 等々力緑地の概要
2. 等々力緑地を取り巻く周辺状況
3. 等々力緑地に関する計画
4. 等々力緑地再編整備に向けた民間活力の導入の取組方針
5. 緑地全体の現状と課題
6. 各施設の現状と課題
 - ①陸上競技場
 - ②とどろきアリーナ
 - ③市民ミュージアム
 - ④硬式野球場
 - ⑤補助競技場
 - ⑥(第1・第2)サッカー場
 - ⑦テニスコート
 - ⑧多目的広場／運動広場
 - ⑨釣り池
 - ⑩催し物広場
 - ⑪四季園／21世紀の森
 - ⑫ふるさとの森
 - ⑬駐車場
 - ⑭下水処理施設上部
 - ⑮公文書館／会館とどろき 【都市公園法区域外】
7. その他の課題

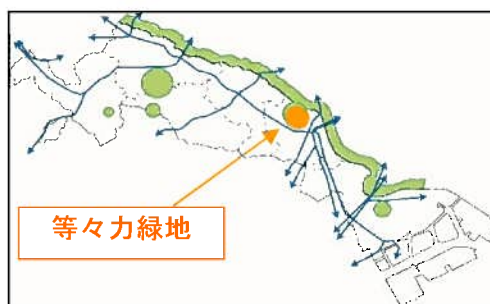
1. 等々力緑地の概要

- 昭和16年都市計画決定。公園施設整備は昭和37年より実施
- 緑地内は、市を代表する運動施設が充実しており、中でも陸上競技場はJリーグ・川崎フロンターレの本拠地として利用されるなど、市民のスポーツ拠点として人気が高い公園の一つ。
- 釣池、日本庭園、四季園、ふるさとの森など自然とふれあえる施設も充実し、園内には 市内随一の芸術空間・市民ミュージアムなどの文化・交流施設がある。川崎市のほぼ中央に位置し、JR南武線・東急東横線武蔵小杉駅より北西約1 kmにある市を代表する総合公園

等々力緑地位置図（広域）



等々力緑地位置図（市内）



- 名称：川崎市等々力緑地
- 所在地 川崎市中原区等々力1
- 面積 都市計画決定面積 56.4ha
事業認可区域 42.9ha
事業認可区域外 13.5ha

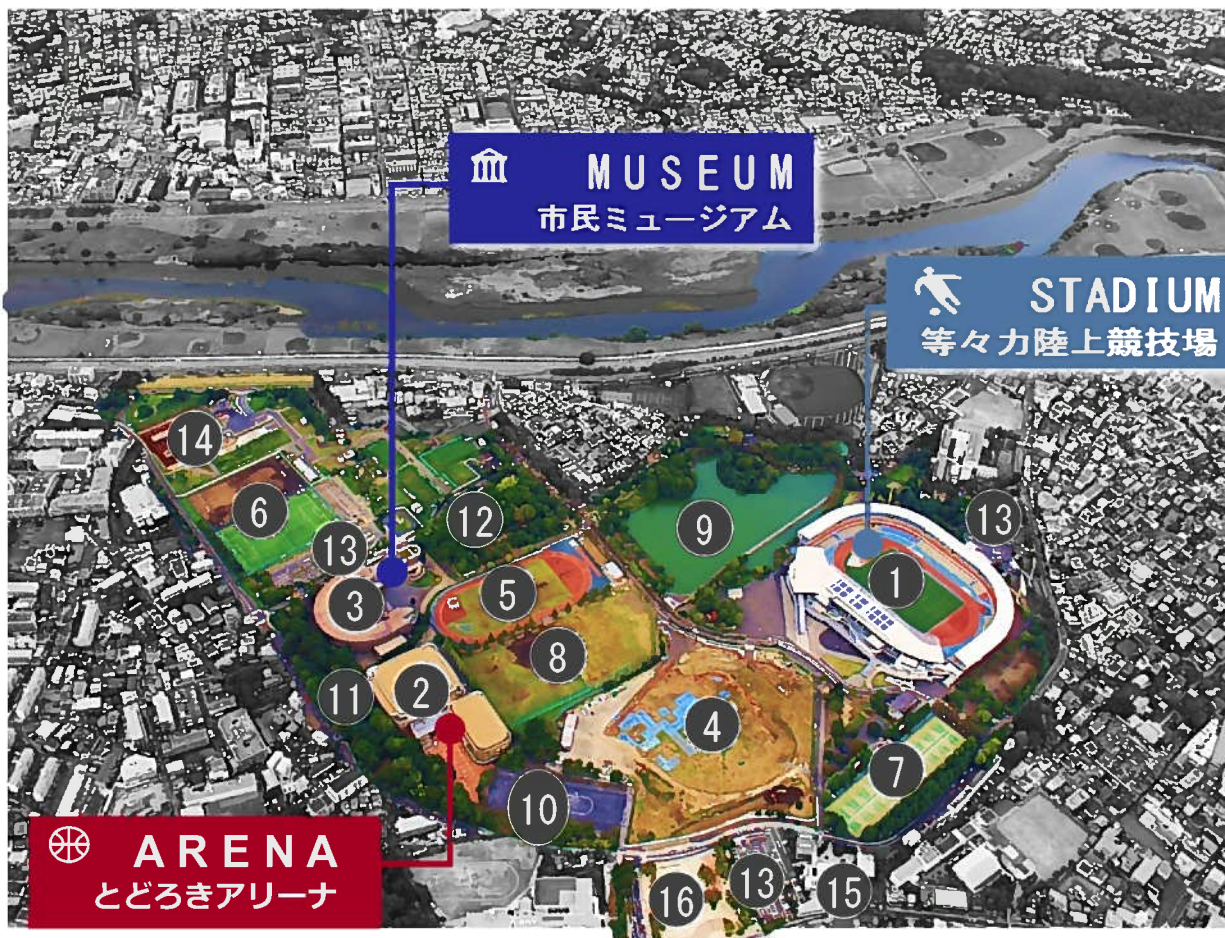
(出典) 川崎市「等々力緑地概要」



中央：等々力緑地（北側から）
左上：武蔵小杉駅周辺
下：多摩川

1. 等々力緑地の概要

等々力緑地配置図（現状）



- ① 陸上競技場
 - ② とどろきアリーナ
 - ③ 市民ミュージアム
 - ④ 硬式野球場（工事中、令和2年度完成予定）
 - ⑤ 補助競技場
 - ⑥ （第1・第2）サッカー場
 - ⑦ テニスコート
 - ⑧ 多目的広場/運動広場
 - ⑨ 釣り池
 - ⑩ 催し物広場
 - ⑪ 四季園/21世紀の森
 - ⑫ ふるさとの森
 - ⑬ 駐車場
 - ⑭ 下水処理施設上部
 - ⑮ 正面広場
- 公園区域外
- ⑮ 公文書館/会館とどろき

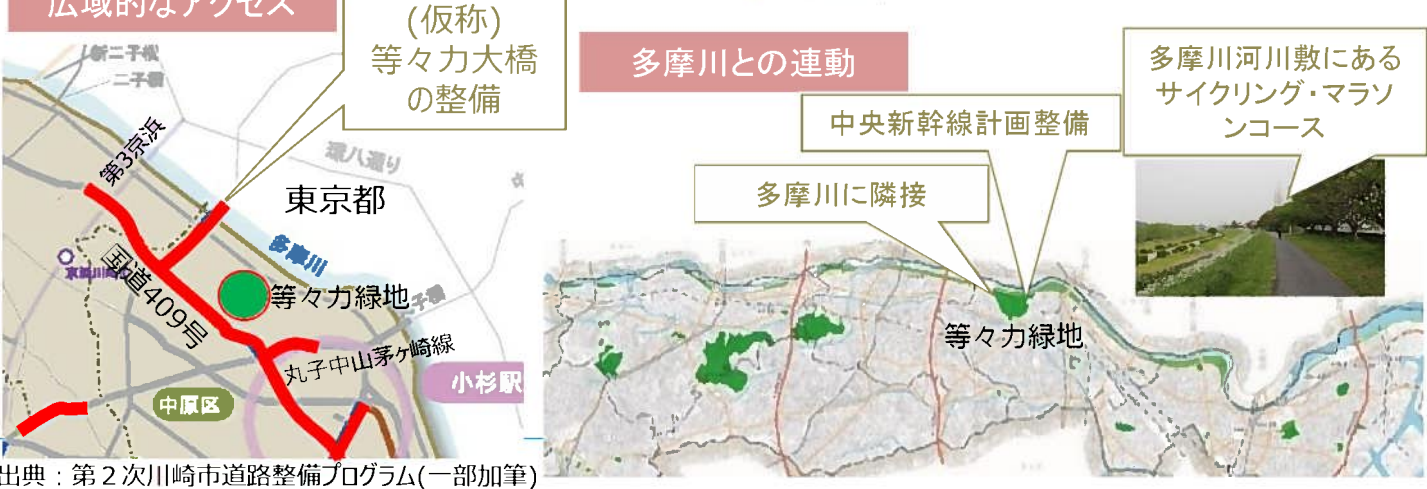
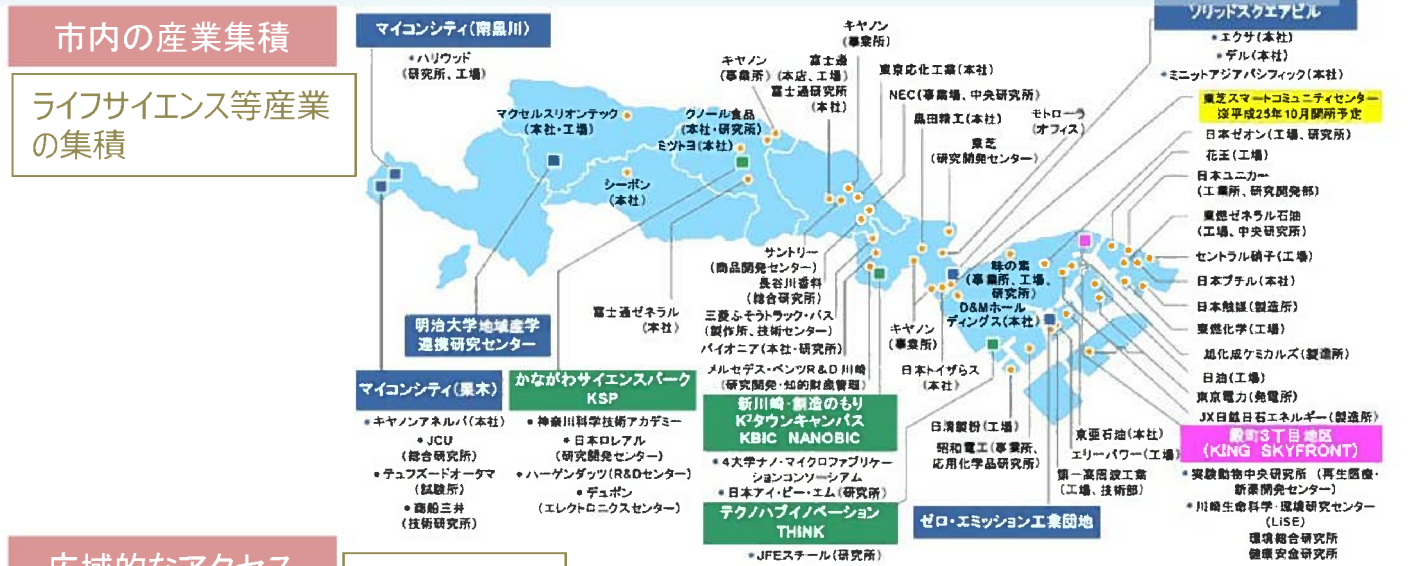
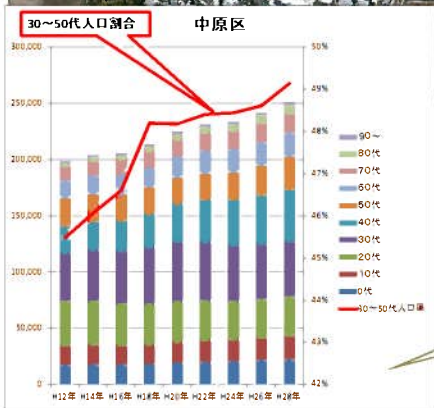
1. 等々力緑地の概要

各施設の概要

	施 設	内 容	面積約 (m ²)
①	陸上競技場	全天候トラック 400 m 8 レーン (1 種 公 認 取 得 予 定) フ ィ ー ル ド (サ ッ カ ー 併 用) 大型映像装置 6.3m×20.0m×1基 大 型 映 像 装 置 7.66 m × 18.0 m × 1 基 スタンド収容人員 約27,495人 夜間照明2基、LED投光器300台	43,957
②	とどろきアリーナ	メインアリーナ、サブアリーナ、トレーニング室ほか	8,993
③	市民ミュージアム	映像ホール、グラフィック、写真、漫画展示室、考古・歴史・民族展示室ほか	8,386
④	硬式野球場	※工事中(令和2年度完成予定)	(20,100)
⑤	中央グラウンド	・補助競技場 全天候トラック400m6レーン (3種公認に向けて改修予定)	40,608
⑧		・、多目的広場 1面、運動広場 1面、管理棟	
⑥	サッカー場	クレイコート1面8,880m ² 、人工芝コート1面9,680m ²	18,560
⑦	テニスコート	砂入り人口芝 10 面、スタンド収容人員 600 人 夜間照明 11基	8,172
⑨	釣池	フィッシングコーナー 釣場延長 520 m、 浮き桟橋 140m、レストハウス(池脇)	33,000
⑩	催し物広場	広場	5,500
	四季園	池、流れ、水車小屋、四阿	4,300
⑪	21世紀の森	寄贈樹木その他により植栽された森 市民ミュージアムへの道(彫刻展示10点)	6,900
⑫	ふるさとの森	寄贈樹木その他により植栽された森、園路、野外卓、ネット遊具、コンビネーション遊具ほか	15,200
⑬	駐車場	3カ所(南:100台、東:158台、ミュージアム前:323台) 収容台数 合計581台	10,980
⑬	正面広場	彫像(健康美) ※競技場等での大型イベント開催時の臨時バス折り返し所	7,800

2. 等々力緑地を取り巻く周辺状況

- 緑地周辺には、①武蔵小杉エリアの発展、②市内の産業集積、③広域的なアクセス向上、④多摩川との連動など、公園の魅力をも高める様々な要素がある。
- 子育て世代を含む区内人口の増加を背景に、さらなる需要の取り込みが期待される。



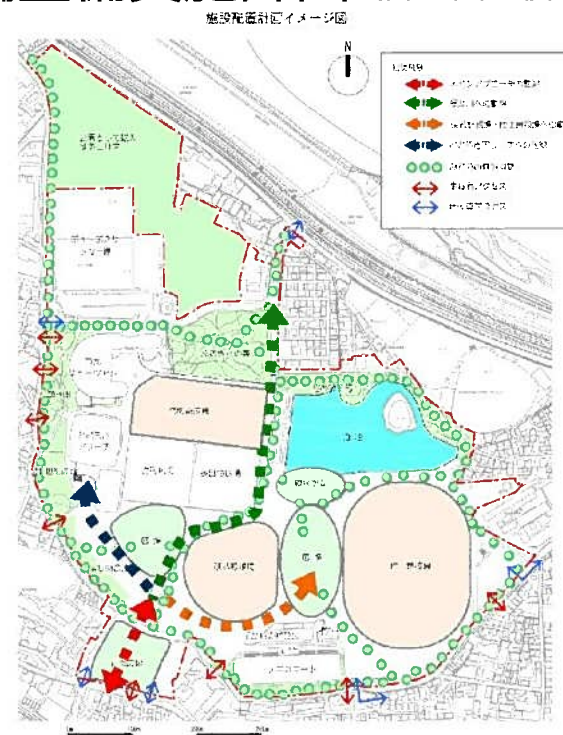
3. 等々力緑地に関する計画

- 平成20年10月に学識者やスポーツ関係者、地域の代表者等で構成する「等々力緑地再編整備検討委員会」を設置し、等々力緑地全体のあり方や施設の再編整備について検討を進め、段階的に計画等を取りまとめてきた。
- これまで、陸上競技場第1期整備(メインスタンド・平成27年完成)や正面広場整備(平成29年完成)を実施。
- 現在、硬式野球場の改築工事を実施中。(令和2年度完成予定)
- 陸上競技場第2期整備(サイド・バックスタンド)については、整備の基本方針やスケジュール等を取り入れた、「等々力陸上競技場第2期整備「整備計画」」を平成30年3月に策定。
- その他、中央広場や緑地として拡大するエリア(下水処理施設上部)等について整備を予定している。

●これまでの計画検討の流れ

平成20年10月	等々力緑地再編整備検討委員会 設置 (平成20年10月 第1回委員会～平成22年10月第15回委員会) (平成22年9月 第1回、第2回等々力緑地再編整備検討委員会幹事会)
平成21年5月	等々力緑地再編整備方針 策定
平成22年2月	等々力緑地再編整備基本構想 策定
平成22年10月	等々力緑地再編整備基本計画 策定
平成23年3月	等々力緑地再編整備実施計画 策定
平成23年11月	等々力陸上競技場整備計画 策定 (平成27年完成)
平成25年3月	等々力硬式野球場整備計画 策定 (令和2年完成予定)
平成30年3月	等々力陸上競技場第2期整備「整備計画」
平成30年11月	等々力緑地再編整備事業における「マーケットサウンディング」実施
平成31年2月	東京急行電鉄株式会社からPFI法に基づく民間提案を受領

●再編整備実施計画 (計画実施後の配置イメージ)



3. 等々力緑地再編整備実施計画について

4 「等々力緑地再編整備実施計画」とは？

緑地内の緑と水、安全・安心の場、動線の再整備、緑地へのアクセスの改善など、緑地全体の再整備の方向とともに、陸上競技場や硬式野球場をはじめとした主要施設の整備の方向と配置、整備手順・スケジュールをとりまとめたもの。

①整備方針

ア 「整備に向けた基本的な考え方」

まちづくりと連携し多様な協働・交流による市民が誇れる緑の拠点づくり

イ 「整備に向けた基本的な考え方を実現するための5つの整備方針」

1. 魅力を高め人の輪が広がる等々力緑地

《スポーツや文化・芸術などを通じた川崎市の魅力を高める市民の交流拠点づくり》

2. まちづくりとともに歩む等々力緑地

《多摩川等の自然環境や小杉地区のまちづくりと連携し、地域の魅力を高める緑の拠点づくり》

3. いつでも誰でも楽しめる等々力緑地

《誰もが憩い・楽しみ、健康増進に寄与する緑地づくり》

4. 頼りになる安全・安心な等々力緑地

《イベント時や災害時でも安全・安心な緑地づくり》

5. みんなで支える等々力緑地

《多様な参画・協働による経営的視点に立った緑地づくり》

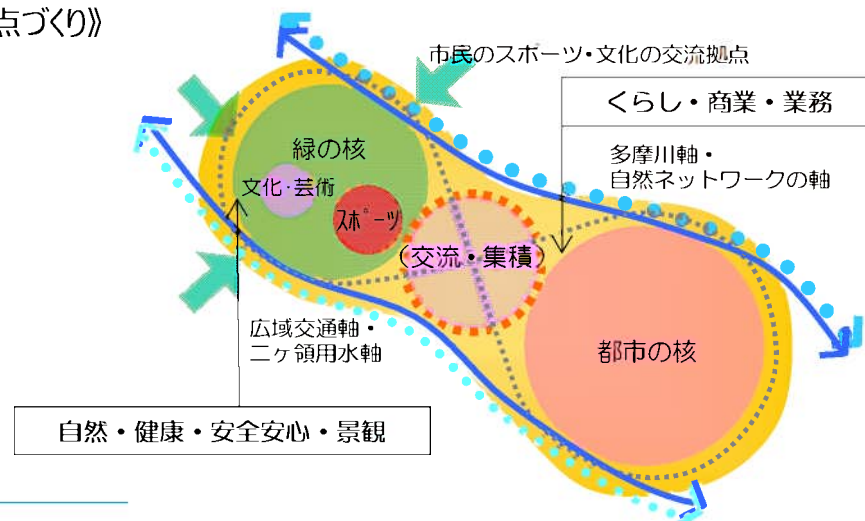


図 整備に向けた基本的な考え方実現の将来イメージ

3. 等々力緑地再編整備実施計画について

②基本構想

ア 再編整備の進め方

現況の等々力緑地

- 公園として公告しているエリア（面積36.6ha）
南側に運動施設を中心とした施設が配置され、都市公園区域として供用がされている区域（図中、着色区域）
- 公園として未整備の区域（面積19.8ha）
 - (1)下水処理施設上部エリア
排水基準へ対応するための新たな取組を実験中（建設事業が完了した部分は、一般利用者が楽しむサッカー場及び駐車場として利用されており公告済み）
 - (2)住宅・工業団地・企業等グラウンドが存在する区域

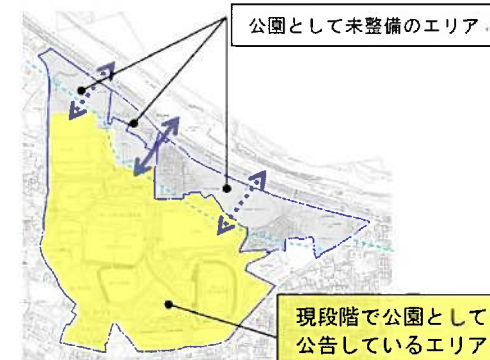
ステップ1：今回対象とする基本構想区域

- 基本構想区域（面積42.9ha）
既に公園として公告しているエリアに公園として拡大するエリアを加えたものを基本構想区域とします
- 公園として拡大するエリア（面積6.3ha）
下水処理施設建設中の上部エリアであり、下水処理施設建設の進捗にあわせ、工事に支障のない区域を、段階的に公園区域へ編入していきます。

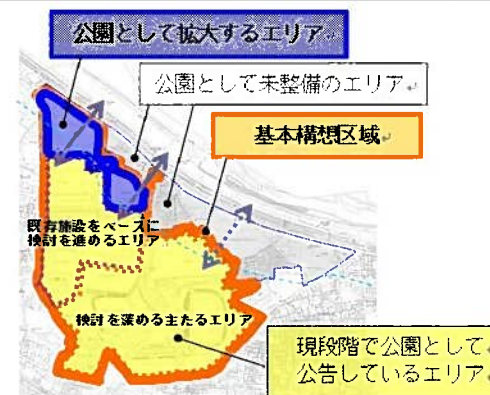
ステップ2：都市計画決定されている等々力緑地

- 事業化と区域のあり方を検討するエリア
現在、住宅・工業団地・企業等のグラウンドが存在している区域についてはさまざまな課題があり、その解決に時間を要することが見込まれるため、課題解決に向けて事業化と区域のあり方を検討していきます。

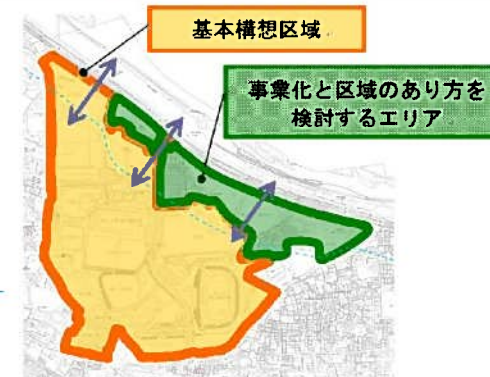
現況の等々力緑地



ステップ1：今回対象とする基本構想区域



ステップ2：都市計画決定されている等々力緑地



3. 等々力緑地再編整備実施計画について

イ 公園の基本的な考え方

(1) みどり豊かなやすらぎと安全・安心の場となる公園「緑と水の再整備」

公園の基本機能である「憩いの場」、「自然とのふれあいの場」、「環境教育の場」としての機能をより高めるため、緑と水について再整備を行い、市民が誇れるみどり豊かな公園とします。

また、災害時の避難場所の確保や周辺植栽による防災機能の向上、見通しや歩きやすさを考慮した緑の園路など安全・安心の場となる公園をめざします。⇒令和元年東日本台風に伴う浸水などあらゆる自然災害リスクを踏まえる必要性

(2) 川崎から発信するスポーツ・健康づくりの拠点としての公園「施設の基本的なあり方」

「硬式野球場」、「陸上競技場」、「プール」などについて、競技者だけでなく「見る」「する」「手伝える」の観点などによる幅広い層の参加や、競技スポーツをはじめ、健康づくりの拠点として全国へ発信できるような施設をめざします。

検討にあたっては、整備年度からの経過期間、施設の現状、利用実態、ニーズ、市内運動施設の状況などを踏まえていきます。⇒古い施設からあるいは、利用実態、過去のニーズだけにとらわれることなく、将来的な利用等を考慮し、検討する必要性

(3) 多様な交流を生み出す場となる公園「連携の推進・交流の拡大」

スポーツや文化・芸術などの拠点として魅力を高めることにより、さまざまな交流の場や機会が充実・創出され、個々の交流の拡大や充実が図られ、さらに個々の交流を連携・展開して相互の交流の拡大を図るとともに、周辺まちづくりや地域との連携や情報の発信などにつながる公園をめざします。⇒武蔵小杉駅周辺のまちづくりが進展し、子育て世代を含む若い世代が増加



公園の基本的な考え方を見直す必要性

②基本構想におけるア 再編整備の進め方及びイ公園の基本的な考え方について「防災・減災の視点を取り入れるとともに、持続可能な公園の実現に向けて、将来的な公園像を示す中で、施設の基本的なあり方を検討する」と修正していく必要があるのではないかと考えている。

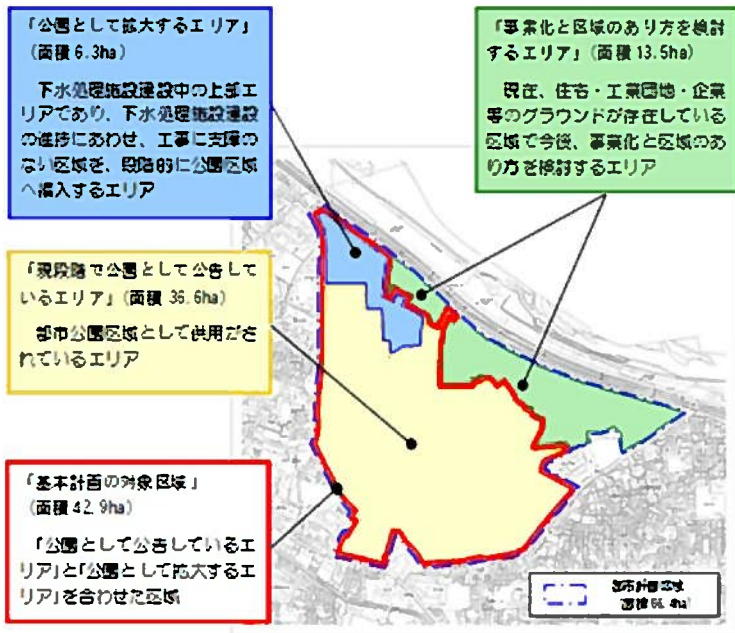
3. 等々力緑地再編整備実施計画について

③整備基本計画

ア 対象区域

「基本計画」では、「現段階で公園として公告しているエリア」と下水処理施設建設中の「公園として拡大するエリア」を対象区域としている。

⇒下水処理施設の工事進捗や区域のあり方を検討する区域における変化

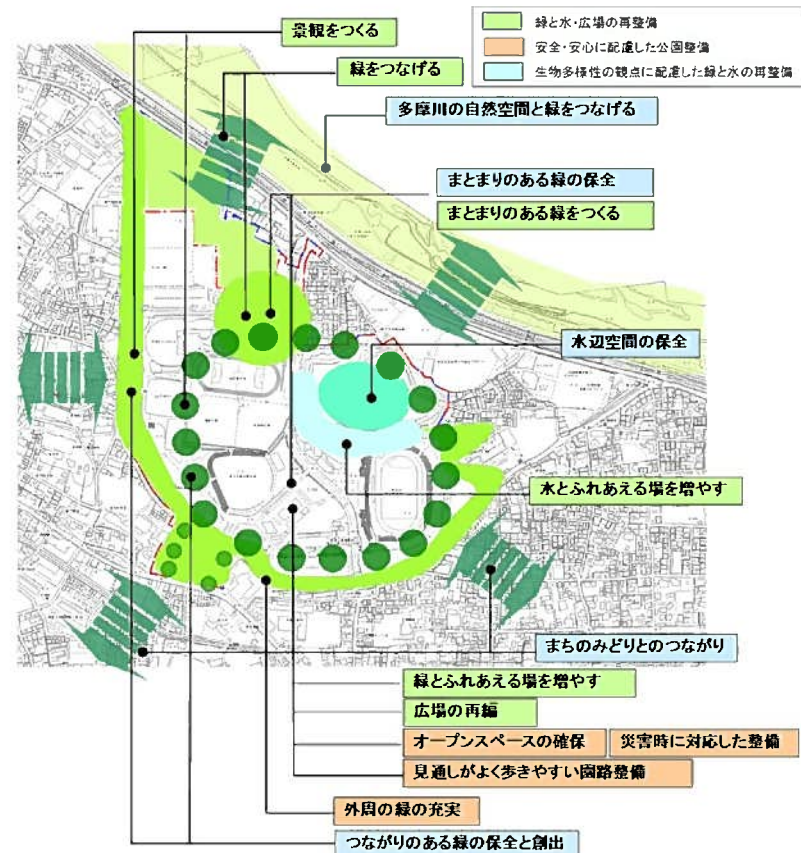


イ 再編整備の方向性

(1) 「みどり豊かなやすらぎと安全・安心の場となる公園」づくり

「緑と水・広場」、「安全・安心」、「生物多様性」の3つの視点からみどり豊かな安全・安心の場となる公園づくりをめざします。⇒大規模施設の改築は進んだが、みどりに係る取組は未完了

- (ア) 多摩川を含めた緑のネットワークの拠点として、市民が誇れるみどり豊かな公園をめざし、次に掲げる視点により、緑と水について再整備を進めます。
- (イ) 日常の安全にも配慮した安全・安心の場となる公園をめざし、次に掲げる視点により、災害時の避難場所の確保や、周辺植栽による防災機能の向上、見通しや歩きやすさを考慮した緑の園路の整備などを進めます。
- (ウ) 緑や水のある空間を生物の生息空間として捉え、次に掲げる視点により、生物多様性の観点に配慮した緑と水の再整備を進めます。



「みどり豊かなやすらぎと安全・安心の場となる公園」のイメージ

3. 等々力緑地再編整備実施計画について

(2) 「川崎から発信するスポーツ・健康づくりの拠点としての公園」づくり

等々力緑地の特色となっているスポーツの拠点として、硬式野球場や陸上競技場などの大規模施設をはじめ、日常の健康づくりの場としての広場、子どもの遊び場、釣池などの施設を整備し、スポーツ・健康づくりの拠点としての公園づくりをめざします。⇒**計画策定後に、硬式野球場、陸上競技場、正面広場の改築工事を実施。**

(ア) 主な施設の整備の方向性について

主な施設	整備の方向性
硬式野球場	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね現位置で、高校野球の予選や社会人大会の開催が可能な硬式野球場として、競技や観戦が円滑かつ安全に行える整備を進めます。 ・施設規模については、高校野球の予選や社会人大会の開催が可能な施設を前提として、収容人員1万人程度をめざします。
陸上競技場	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に現位置で、1種公認陸上競技場として、陸上の大会やリーグの試合などの競技や観戦が、円滑かつ安全に行える整備・改築を行います。 ・競技やイベントが開催されていないときは市民が利活用できる施設をめざします。 ・施設規模については、リーグの試合などを円滑に運営できる施設を前提として、収容人員は3万人程度を基本に、3万5千人に配慮して検討を進めます。
補助競技場	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技は陸上競技場での開催を基本とし、陸上競技場の利用調整を見据え、中学生や高校生の競技会・記録会が開催できるように機能向上を図ります。
プール	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の利用を主として、じゃぶじゃぶ池など通年利用の親水施設への変更も含めて検討していきます。
正面広場	<ul style="list-style-type: none"> ・公園のメインエントランスとして、人や車の流れや園内の各施設へのアクセスを考慮した整備をめざします。
釣池	<ul style="list-style-type: none"> ・水質の改善を図ります。 ・レクリエーションとしての釣りを楽しむ機能とともに、自然学習や親水空間として来園者への開放をめざします。
子どもの遊び場	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育成やコミュニケーションの場となる施設として、安全・安心で、創造力の発達、心や体の成長につながる整備に向けた検討を進めます。 ・多様な世代の利用が可能な施設の整備に向けて検討します。
広場・オープンスペース	<ul style="list-style-type: none"> ・人が集い、さまざまな利用ができる施設として、規模や舗装などを考慮した整備をめざします。
駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関の利用を原則とし、周辺交通に負担がかからないよう、適切な位置・規模・必要台数の確保をめざします。

3. 等々力緑地再編整備実施計画について

(イ) 施設整備にあたっての留意点

⇒概ね配慮して実施しているものの、民間活力の導入や施設の多目的利用等はさらなる取組が必要

次の点に留意して施設整備を進めます。

留意点	整備の方向性
関係者との緊密な調整 ⇒継続して実施	特に、硬式野球場、陸上競技場、補助競技場については、関係者と緊密な調整を図りながら整備を進めます。
施設の閉鎖期間 ⇒配慮して実施	継続的な競技開催という視点に立ち、施設整備に要する施設の閉鎖期間を可能な限り短縮する方向で整備を進めます。
施設の多目的利用や集約化・複合化・立体化 ⇒一部複合化にとどまる。	限られた敷地を有効活用し魅力を高め利用の拡大を図るため、施設の多目的利用や集約化・複合化・立体化などをめざします。
施設のネットワーク化 ⇒未実施	利用者の利便性向上のため、各施設の機能を補完し緑地全体で施設のネットワーク化を図ります。また、施設間のネットワーク形成に向け、各施設の入口と園内動線を考慮したアプローチなどの整備を進めます。
民間活力の導入 ⇒陸上競技場メインスタンドにおいては、設計施工一括発注としたが、維持管理・運営については未実施	整備にあたっては、設計・施工一括発注など民間活力の導入を検討します。また、維持管理・運営についても民間活力の導入を検討します。
防災面への配慮 ⇒配慮して実施	平常時と発災時の両面に配慮し、避難スペースの確保とともに、貯水施設の複合化など災害時の機能を考慮します。
周辺住民等への配慮 ⇒配慮して実施	施設からの音や夜間の照明など、周辺住民への影響に配慮した整備を進めます。
バリアフリーへの対応 ⇒配慮して実施	ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、バリアフリーなどだれもが利用しやすい施設とします。
地球環境への配慮 ⇒配慮して実施	太陽光や風力などの自然エネルギーの活用、雨水の利用など地球環境に配慮した整備を進めます。

3. 等々力緑地再編整備実施計画について

(3) 「多様な交流を生み出す場となる公園」づくり

スポーツや文化などの活動を通じて利用者やさまざまな主体の多様な交流を生み出す場となる公園づくりを進め、あわせて、地域の団体等と連携し、地域の魅力向上を図ります。⇒川崎フロンタールによる取組を中心に大規模スポーツイベントの際には、取組が進んでいるが、日常的な公園の取組の充実が必要

多様な交流を生み出す場となる公園づくりをめざし、次に掲げる取組を進めます。

ア 交流の機会の充実

再編整備を通じて、さまざまな主体が活動できる場を創出し、交流の機会の充実を図ります。

(ア)園内の日常管理などについては、市民との協働した取組を進めるとともに、イベント等の開催についてもボランティアなど、さまざまな主体による参加を通じた交流の機会の充実をめざします。

(イ)レクリエーション、スポーツ・健康づくり、文化・芸術など、さまざまな主体が行う活動については、主体間の交流が生まれるように、各施設共通のイベント開催など交流機会の場の創出をめざします。

イ 地域等との連携

商店街や企業、医療施設や学校、周辺まちづくり、緑地周辺でのさまざまな活動などと連携し、緑地全体や周辺地域の魅力向上をめざします。

ウ アクセシビリティの向上

多様な交流を生み出すために、緑地までのアクセスや緑地内の歩行者動線などの改善を図ります。

(ア)周辺のまちづくりや道路整備事業と連携し、徒歩、自動車、公共交通機関のアクセスの改善を進めます。

(イ)緑地内や各施設の散策路などを整備し、安全で快適な歩行空間の確保をめざします。

3. 等々力緑地再編整備実施計画について

④再編整備実施計画

(1) 緑地全体の再整備の方向

緑と水のうろおいの空間の機能充実に向けて、「緑と水の再整備」、「安全・安心の場の再整備」、「緑地内動線の再整備」、「緑地へのアクセス改善」の4つの視点で整備を進めます。

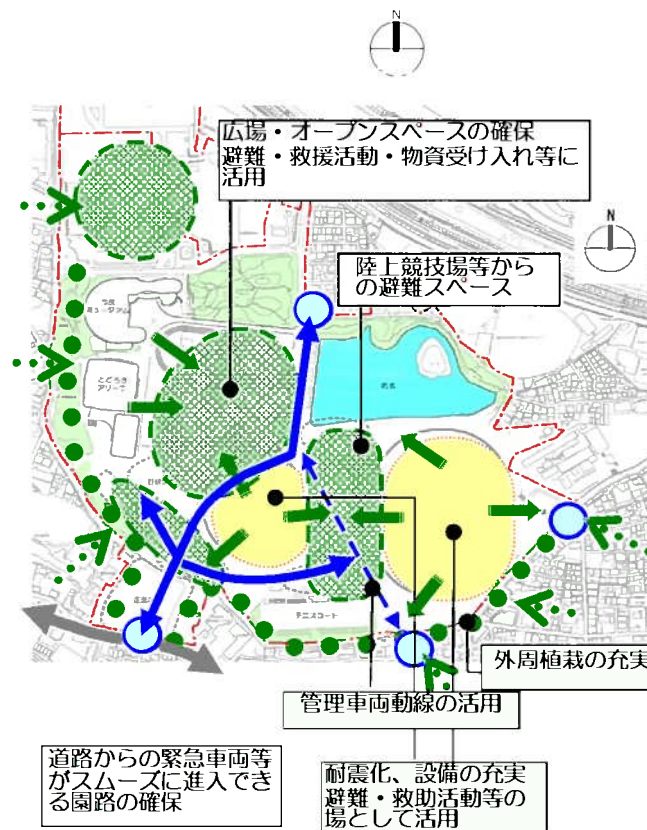
(2) 安全・安心の場の再整備

日常誰もが安全・安心に利用できる緑地であるとともに、災害時には避難・救助等に対応する機能が求められていますので、次の方向で再整備を進めます。

緑と水の再整備イメージ図



安全・安心の場の再整備イメージ図



3. 等々力緑地再編整備実施計画について

④再編整備実施計画

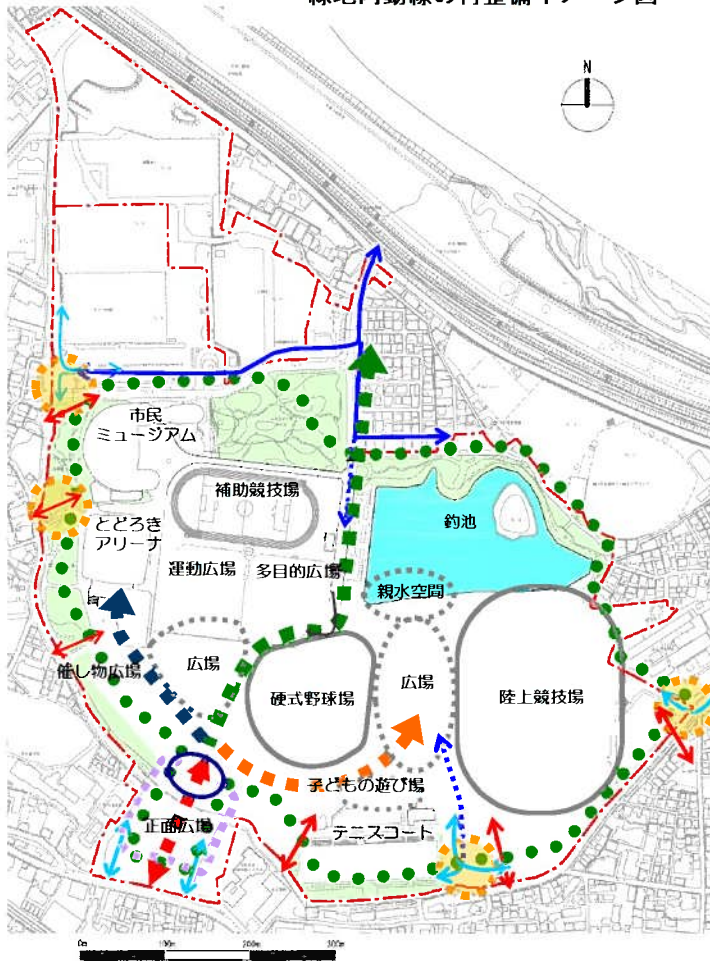
(3) 緑地内動線の再整備

安全かつ円滑な緑地内の歩行者動線、自動車等動線を確保するとともに、施設間のわかりやすい動線を整備し、施設利用の活性化や利便性の向上を図ります。

(4) 緑地へのアクセス改善

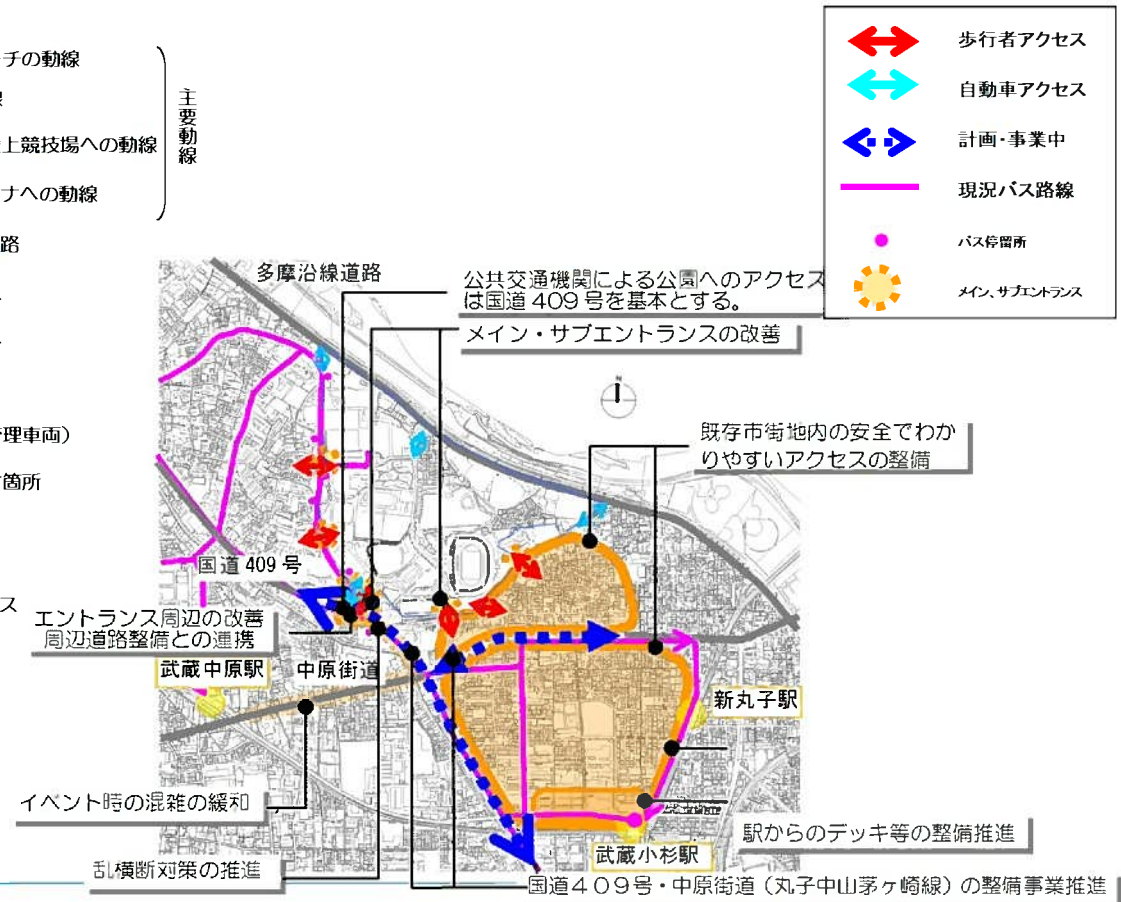
安全でわかりやすい歩行者アクセス、自動車渋滞の解消などに向けた取組を進めます。

緑地内動線の再整備イメージ図



- 動線凡例
- ◀---▶ (Red dashed) メインアプローチの動線
 - ◀---▶ (Green dashed) 多摩川への動線
 - ◀---▶ (Orange dashed) 硬式野球場・陸上競技場への動線
 - ◀---▶ (Blue dashed) とどろきアリーナへの動線
 - (Green dots) みどりの回遊園路
 - ↔ (Red solid) 歩行者アクセス
 - ↔ (Cyan solid) 自動車アクセス
 - ↔ (Blue solid) 自動車動線
 - ↔ (Blue dashed) 自動車動線 (管理車両)
 - (Blue solid) 主な立体化検討箇所
 - (Purple dashed) 正面広場整備
 - ☀ (Yellow sun) サブエントランス
- 主要動線

緑地へのアクセス改善イメージ図



3. 等々力緑地再編整備実施計画について

④再編整備実施計画

・主要施設の整備の方向と配置

施設整備にあたっては、バリアフリー化の推進・ユニバーサルデザインの導入、自然エネルギーの活用・地球環境への配慮、音や照明など周辺住民への配慮などの視点に留意し、次の方向で整備を進めます。

(1) 硬式野球場

- ・施設規模は収容人員1万人程度とします。
- ・施設位置は、正面広場から多摩川へ続く緑の軸線を整備するため、南東方向へ移動します。
- ・施設は、日照による守備への影響を考慮し、本塁側を北東の向きとします。

(2) 陸上競技場

- ・施設規模は、Jリーグの試合を円滑に運営できる施設を前提とし、3万5千人程度とします。
- ・現位置で、競技場周囲における歩行者の通行・待機スペースを考慮した整備を進めます。

(3) 補助競技場

- ・陸上競技場の利用調整が困難な場合を見据え、写真判定装置、計時計測機器の設置など機能向上について、関係者と調整を進めます。

(4) プール

- ・児童の利用が主となっていることから、じゃぶじゃぶ池など親水施設への変更等の検討を進めます。
- ・プールの機能のひとつである健康維持・健康づくりという視点からも、施設の必要性の検討を進める中で、大規模施設への複合化や公園区域の拡大に合わせた整備の可能性などを検討します。

(5) 正面広場

- ・メインエントランスとして、緑地の顔となるようなオープンスペースを確保するとともに、正面広場から多摩川緑地までの緑の軸線を形成します。
- ・人や車の流れや緑地内の各施設へのアクセスを考慮し、歩行者動線の立体化なども含めた整備を進めます。

(6) 釣池

- ・水質改善に向け、浚せつ等の工法等の調査・検討を行います。
- ・釣りを楽しむ空間とともに、来園者にとって開放性の高い空間整備を進めます。

(7) 子どもの遊び場

- ・現在の機能を保つため、適切に維持管理、更新を行います。

(8) 広場・オープンスペース

- ・人が集いさまざまな利用ができる施設として、まとまりのある広場・オープンスペースの整備を進めます。

(9) 四季園

- ・車水小屋やあずまやなどを活かし、四季折々の樹木が楽しめる空間とします。

(10) 21世紀の森

- ・緑とアートを楽しむ空間の再整備を進めます。

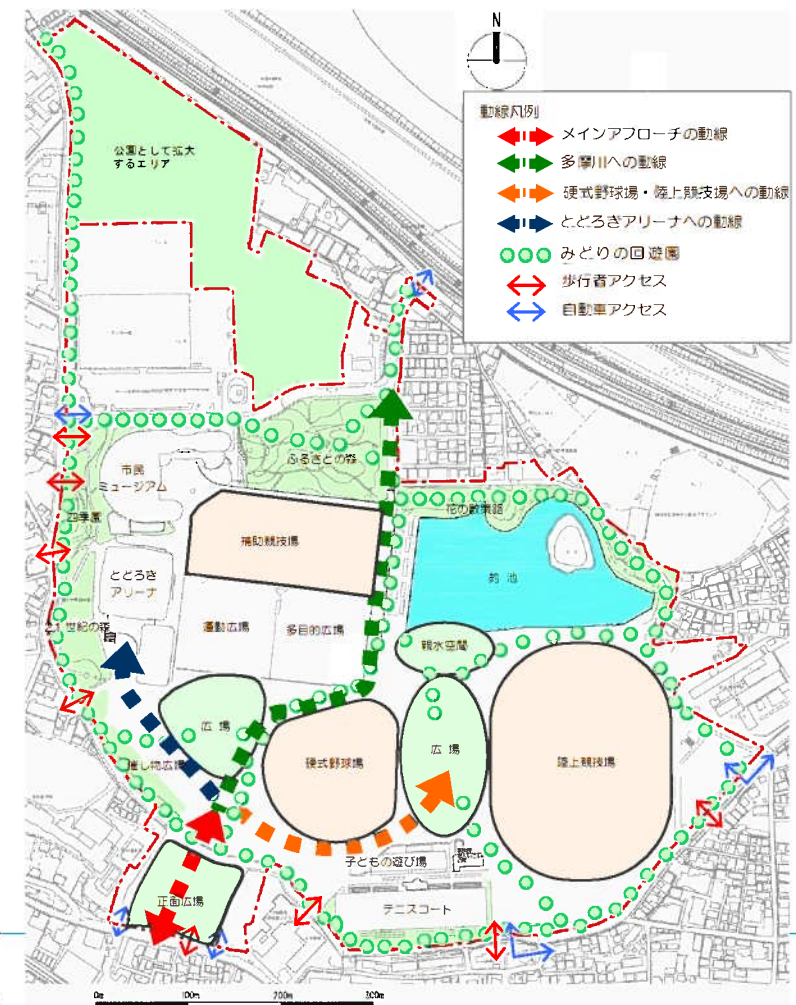
(11) 花の散策路

- ・釣池と調和した緑と水による修景的魅力の向上を図る散策路の再整備を進めます。

(12) 駐車場

- ・公共交通機関の利用を促進することを前提に、現状程度の台数を確保します。

施設配置計画イメージ図



3. 等々力緑地再編整備実施計画について

④再編整備実施計画

・整備手順

緑地内施設については、AからIまでの9つのゾーンに区分して順次再編整備を進めるとともに、動線については、aからdの4つに区分し順次整備を進めます。

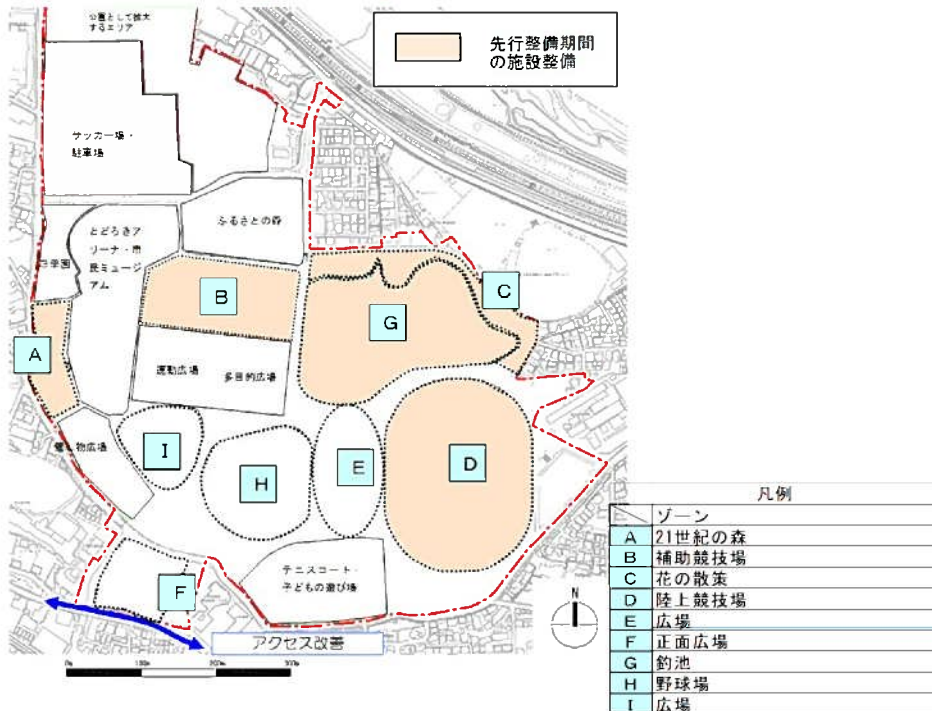
(1) 先行整備期間の整備について

- ・第3期実行計画期間中の平成23年度から25年度を「先行整備期間」として、A 21世紀の森、B 補助競技場、C 花の散策路、D 陸上競技場の整備、緑地へのアクセス改善を順次進めます。
 - ・大規模施設である硬式野球場と陸上競技場は、同時に工事を進めると工事の影響範囲が広範囲となるので、時期をずらして整備を進めます。
 - ・陸上競技場は、第1期工事としてメインスタンドの整備を進めます。
- ※ G 釣池は、浄化に向けた調査・検討を行います。

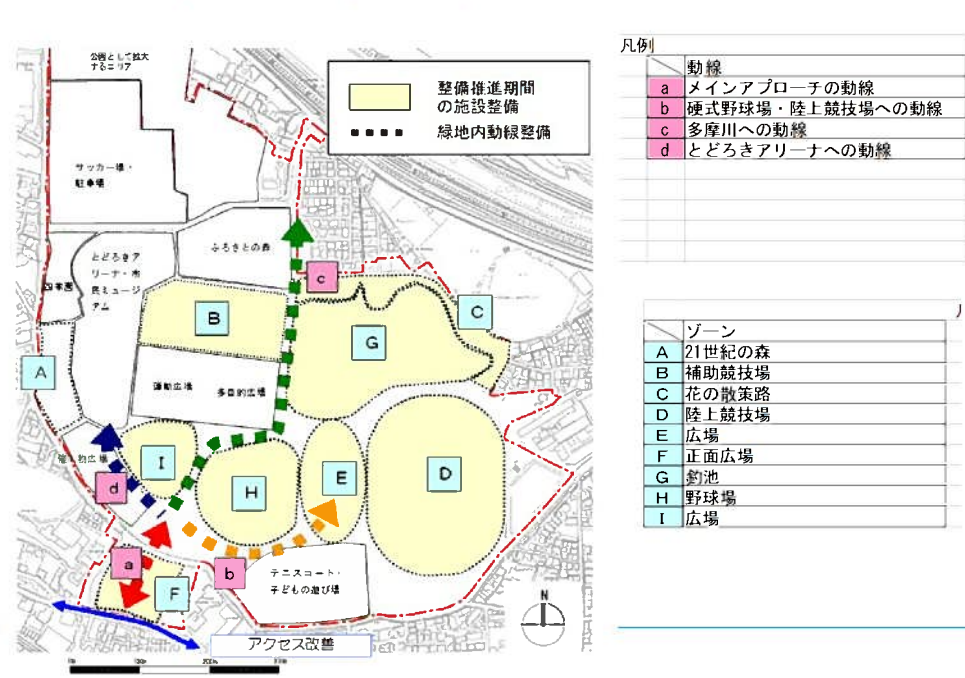
(2) 整備推進期間の整備について

- ・平成26年度以降を「整備推進期間」とし、D 陸上競技場、E 広場、F 正面広場、G 釣池、H 硬式野球場、I 広場の整備と、a から d 緑地内動線の整備を進めるとともに、駐車場整備、緑地へのアクセス改善を順次進めます。
- ・陸上競技場は、第2期整備工事としてサイドスタンド・バックスタンドの整備を進めます。
- ・硬式野球場の整備を進めるとともに、球場の西方向にまとまりのある広場を創出します。

先行整備期間の整備イメージ図



整備推進期間の整備イメージ図

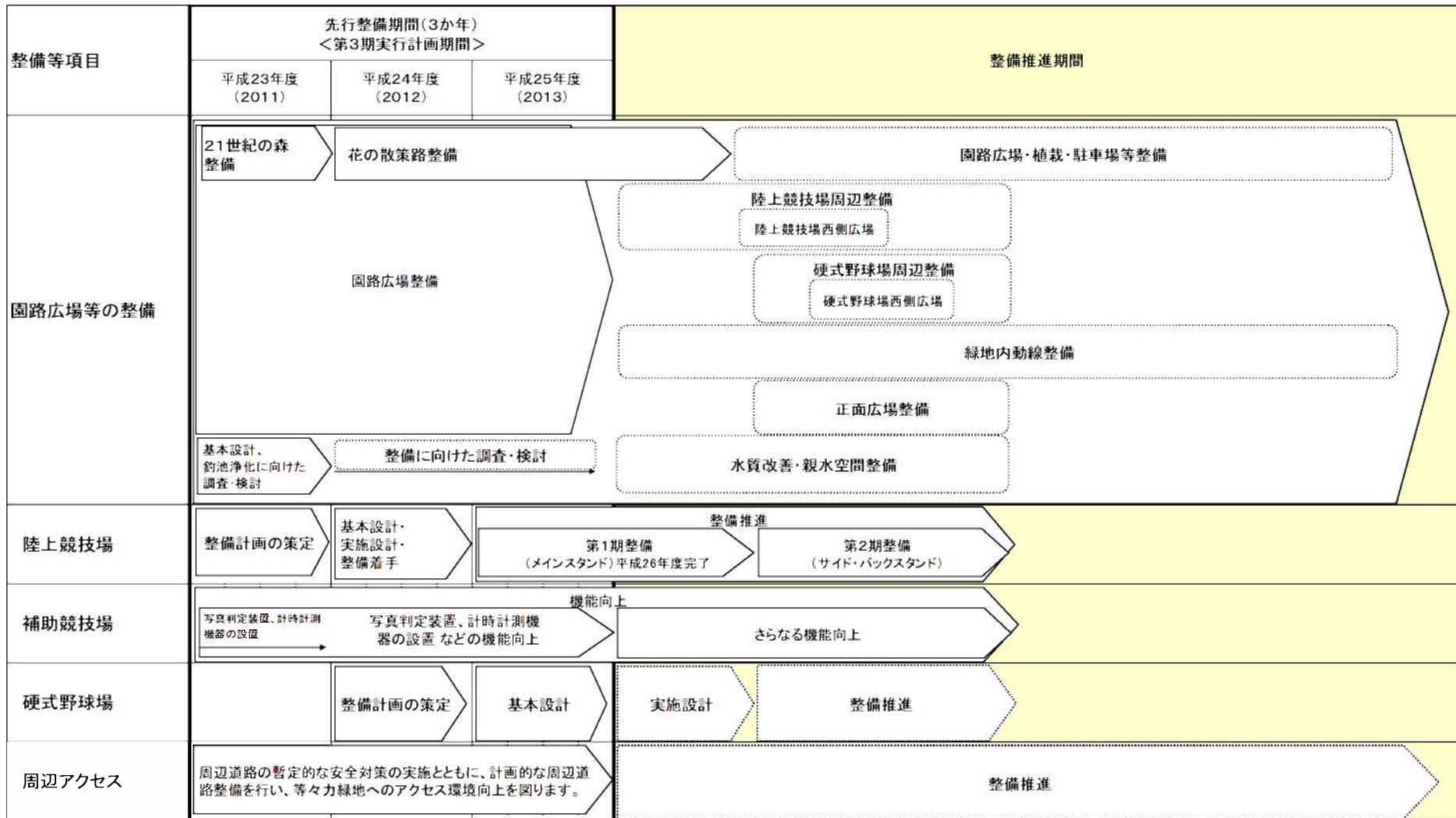


3. 等々力緑地再編整備実施計画について

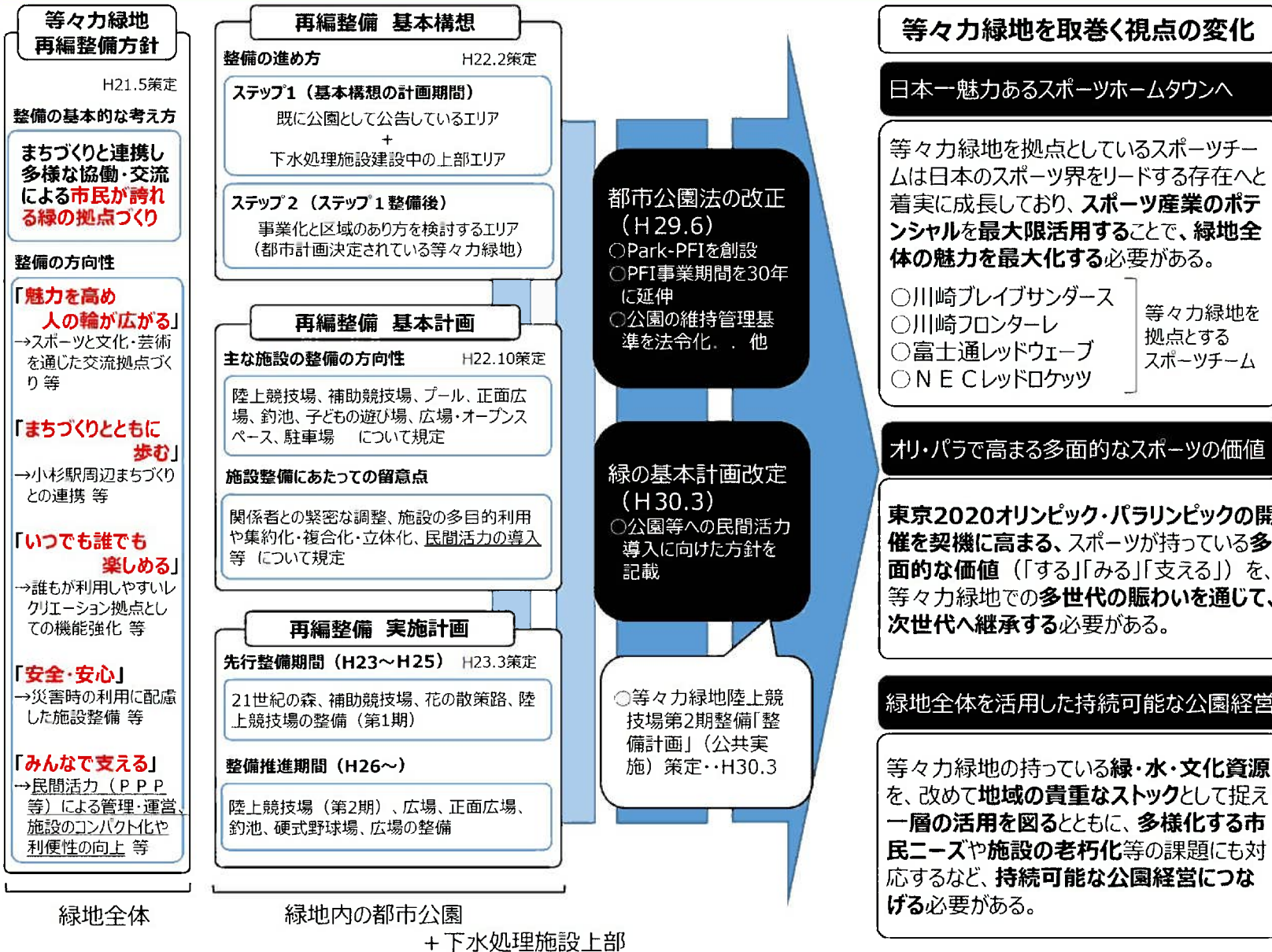
④再編整備実施計画

・全体スケジュール

全体のスケジュールとしては、おおむね10年を想定します。



4. 等々力緑地再編整備に向けた民間活力の導入の取組方針



等々力緑地を全ての市民に愛され活用される場となるよう「ふじ」ならではの「魅力と」にしかなく「価値を創造するため」民間のフレキシブルな意見を最大限取り入れる

緑地全体

緑地内の都市公園
+ 下水処理施設上部

5. 緑地全体の現状と課題

- ・ 緑地内施設は現在、各々、直営、業務委託(公園緑地協会等)、指定管理者により管理している。
- ・ 緑地を通じた川崎市の収入は、運動施設等の施設使用料と、駐車場や売店等の設置・管理許可使用料、オープンスペース等でのイベント等にかかる公園内許可使用料や占用料等からなる。
- ・ 指定管理者制度を導入しているアリーナと市民ミュージアムは、利用料金と指定管理料の併用で運営されており、市の収入はない。
- ・ 支出は運動施設及びオープンスペース等に係る業務委託費と、指定管理料からなる。
- ・ 現状の収支の差額は市の支出として約10億円(大規模修繕費や再編整備費を除く。)に上る。安定的な収入の確保を含め、財政負担の低減が課題となっている。

川崎市収入			川崎市支出		
施設	項目	千円・税抜 収入	施設	項目	千円・税抜 支出
陸上競技場	使用料、設備・装置使用料、広告掲出料、看板占用料、器具、写真判定室	91,764	陸上競技場	日常・大会運営	263,498
補助競技場・運動広場	大会使用料(個人使用料は陸上競技場に含む)	1,378	とどろきアリーナ	指定管理料	261,468
硬式野球場	使用料、ナイター使用料	4,277	市民ミュージアム	(平成27年度歳出予算) 非常勤職員経費、運営管理事業費、企画広報事業費、施設整備事業費、補修事業費等	479,739
テニスコート	使用料	26,004	硬式野球場	人件費、委託料、光熱水費、補修費、点検費等	74,157
サッカー場	使用料、ナイター使用料	9,196	補助競技場、テニスコート、サッカー場、釣池、オープンスペース	運営管理業務費、設備管理費、植栽維持管理費、光熱水費、補修費等	86,537
釣池	使用料	11,226	合計		1,165,399
駐車場	設置・管理許可使用料	19,981			
売店・食堂	設置・管理許可使用料	912			
緑地内占用料	インフラ等に係る占用料	2,445			
公園内行為使用料	公園内行為許可使用料	2,659			
その他	その他の設置・管理許可使用料及び手数料	1,119			
合計		170,961			

収支差額： **△994百万円**

5. 緑地全体の現状と課題

- H29年度に実施した官民連携可能性調査や昨年度実施したマーケットサウンディングにおける事業者ヒアリングにおいて、課題として、①立地及びアクセスの改善、②「憩いの場」となる空間の不足、③魅力あるコンテンツ及び情報発信の不足、④施設等の確保・再配置・改変の必要性、⑤維持管理水準の改善、といった点が挙げられている。
- ヒアリングにより意見が多かったのは、アクセスの問題と、緑地の「憩いの場」としての機能の不足。

課題	具体的な内容（例）
立地及びアクセスの改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅から遠い ・ 動線が悪い（安全性が低い、道が分かりにくい） ・ 駅周辺の商業施設内に子ども向けの遊び場（公園機能の代替施設）がある ・ 多摩川河川敷と分断されている
「憩いの場」となる空間の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段使いの公園として、ゆっくり過ごす場がない ・ 運動の後などにくつろげる空間がない ・ 子供の遊び場としての魅力が低い
魅力あるコンテンツ及び情報発信の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公園として魅力あるコンテンツが不足している ・ プロスポーツの拠点であることを活かせてない ・ 情報発信力が弱く、認知されていない
施設等の確保・再配置・改変の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植栽が鬱蒼としている ・ 園内の道路（車道）が危険 ・ 駐車場が不足している ・ 全体的に施設の配置が整っていない
維持管理水準の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩道など公園施設が老朽化している ・ 夜間の人通りが少ない、照明が少ない等の理由により安全面（防犯）に懸念がある

5. 緑地全体の現状と課題

＜鬱蒼とした植栽＞



＜園路の老朽化＞



＜看板が見えない等々力入口の案内表示＞



＜鬱蒼とした植栽で看板が見えない様子＞



6. 各施設の現状と課題 ①陸上競技場

- 等々力陸上競技場は、Jリーグの試合、国際大会や市民大会、また市民の個人利用の場として、利用されている。
- 「日程調整会議」*により、主な関係団体が優先的に年間の利用を決定する。土日祝日の利用は、概ね、前年度の日程調整会議で確定する。平日は、スポーツ大会や教室等での利用を除いて、個人利用に解放している。
- 第2期整備(サイド・バックスタンド)が予定されており、収益性の高い利用方法により、緑地全体の魅力向上や市の財政負担の低減が望まれるところである。

<現状の利用者数>

項目	2018 (年度)	2017 (年度)	2016 (年度)
年間入場者数	—	704,860人	615,777人
(Jリーグ※)	394,709人	375,910人	376,305人
推定個人利用者数	—	14,293人	16,790人

※Jリーグ試合数 17試合 (平均23,218人/試合)

<管理状況>

- 主に(公財)川崎市公園緑地協会に管理委託

<現状の課題>

- 平日は、スポーツ大会や教室等での利用と、休場日である月曜日を除いて、個人利用に解放されているが、利用率は低い。
- フロンターレのショップは試合日のみオープンする。試合のない日の陸上競技場周辺は閑散としている。
- フロンターレのホームスタジアムとしての賑わいが緑地全体に波及していない。

* 日程調整会議

一般利用申し込みに先立って、公益性の高い事業について、事前に日程の確保を行っている。プロチームの試合や市民スポーツ大会等での利用が集中しており、とりわけ陸上競技場やとどろきアリーナは、年間を通して土日は概ね前年度の日程調整会議により決定されている。

競技場全景

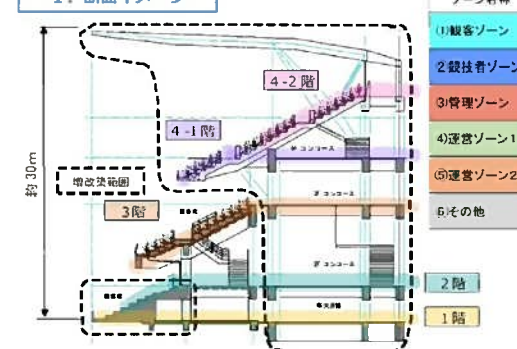


サイド・バックスタンド



サイド・バックスタンド (公設：増改築案)

1. 断面イメージ



6. 各施設の現状と課題 ②とどろきアリーナ

- メインアリーナ、サブアリーナ、体育室、研修室、トレーニング室等からなる複合的な体育館施設である。
- プロスポーツ、イベントなどの他、区のスポーツセンターとして市民利用にも供しているなど、この2つの機能を有するアリーナである。
- 土日は、3つのプロスポーツの試合(ブレイブサンダース、レッドロケッツ、レッドウエーブ)や市民スポーツ大会の開催もあり、日程調整会議により概ね埋っている。
- その他、興行や展示会、教室事業等により、平日も含めて稼働率は高い。

<現状の利用者数>

H28年度	H29年度	H30年度
917,389人	995,452人	1,195,802人

<管理状況>

- H30年～とどろきスポーツ文化パートナーズを指定管理者として指定し、利用料金制度をとっている。
- 指定管理料は約2.6億円(H29年度)である。

<現状の課題>

- 他の緑地内施設同様、ネーミングライツ導入は未実施。
- 指定管理者により、館内のカフェや教室開催などが検討されているが、数年の指定管理期間では収支が確保できず実現できていない(事業者ヒアリングより)。



6. 各施設の現状と課題 ③市民ミュージアム

- 展示室(常設・企画)やアートギャラリー、映像ホール、ミュージアムライブラリー等からなる、博物館と美術館の複合文化施設。博物館展示室における無料の常設展と、一部有料で会期を設けて実施する企画展が、主要なコンテンツである。
- 平成29年度から指定管理者制度を導入し、総利用者数が急増した。
- 建築家菊竹清訓の設計の建造物で、前庭には、世界で唯一保存されているトーマス転炉を産業遺産として展示している。

<現状の利用者数>

H28年度	H29年度	H30年度
181,910人	282,211人	302,999人

<管理状況>

- H29年度より、アクティオ・東急コミュニティ共同事業体を指定管理者として指定し、利用料金制をとっている。
- 指定管理料は約4.2億円(H29年度)である。

<現状の課題>

- スポーツ施設が多い等々力緑地の中で唯一の文化施設であり、他の機能との連携を図ることが難しい面がある。
- 広い前庭と重厚な施設でありながらも、平日の賑わいは乏しい。以前、民間事業者によるレストランの営業が行われていたが、経営が厳しく、撤退を余儀なくされた。



6. 各施設の現状と課題 ④硬式野球場

- 改築前の硬式野球場は、主に高校野球や社会人野球の練習、大会で利用されていた。
- 平日の日中は高校野球の利用のみに供していたため、一般開放はナイターのみとなっていた。

<現状の利用者数>

		平成27年度		
		利用可能コマ数	利用実績コマ数	利用率
昼間	平日	196	195	99.5%
	休日	188	188	100%
ナイター	平日	116	68	58.6%
	休日	74	51	68.9%

<管理状況>

- 現在改築中。改築前は、日常管理については業務委託。(その他、施設補修工事等は市が対応)
- 改築前の専用使用料1回(2時間以内)2,500円、照明施設専用使用料1面1回(1時間以内)6,000円で、318万円の使用料収入がある。

<現状の課題>

- 施設の使用料金単価が他都市と比較して低廉であり、稼働率の高さに対して、使用料収入が少ない。

6. 各施設の現状と課題 ⑤補助競技場

- 1周400m6コースの公認陸上競技場である。令和元年度末に3種公認に向けた整備を予定している。
- 利用については、土日は日程調整会議で決定される割合が高く、インフィールド内でサッカー大会などが行われている。平日については、特定の団体等の練習等がないため、陸上競技場よりも個人利用に供される日程は多い。
- 補助競技場と多目的広場の中間にある管理事務所には、更衣室やシャワー室が整備されている。

<現状の利用者数>

H28年度	H29年度	H30年度
16,790人	14,294人	11,418人

<管理状況>

- 日常管理については業務委託。(その他、施設補修工事等は市が対応)
- 個人使用料1人1回(2時間以内)で18歳以上200円、13~18歳100円となっている。
- 大会使用料として約130万円の収入がある。

<現状の課題>

- 平日の利用が少なく、大会等がなければ閑散としている。



6. 各施設の現状と課題 ⑥(第1・第2)サッカー場

- 第1サッカー場は元々天然芝であり、養生の必要性から原則として平日は利用に供していなかった。H28年3月に川崎フロンターレの負担付寄付による人工芝化とともに、H28年度の照明設備の設置により、利用拡大を図っている。第1サッカー場のナイターは負担付寄付の関係で、フロンターレが利用しており、稼働率は概ね100%となっている。
- 第2サッカー場は、休日の昼間／ナイター、平日ナイターの利用率が高いが、平日の昼間は相対的に利用率が低い。

<現状の利用者数>

		平成28年度			平成29年度			平成30年度		
		利用可能コマ数	利用実績コマ数	利用率	利用可能コマ数	利用実績コマ数	利用率	利用可能コマ数	利用実績コマ数	利用率
昼間	平日	1,074	747	69.6%	1,280	830	64.8%	1,535	1,102	71.8%
	休日	579	579	100.0%	644	601	93.3%	758	716	94.5%
ナイター	平日	246	230	93.5%	243	231	95.1%	243	233	95.9%
	休日	119	111	93.3%	115	105	91.3%	115	106	92.2%

		平成28年度			平成29年度			平成30年度		
		利用可能コマ数	利用実績コマ数	利用率	利用可能コマ数	利用実績コマ数	利用率	利用可能コマ数	利用実績コマ数	利用率
昼間	平日	1,103	424	39.0%	1,173	434	37.0%	1,417	615	43.4%
	休日	591	530	89.7%	632	528	83.5%	746	639	85.7%
ナイター	平日	208	200	96.2%	238	193	81.1%	238	194	81.5%
	休日	106	95	89.7%	113	91	80.5%	113	96	85.0%

<管理状況>

日常管理については業務委託。(その他、施設補修工事等は市が対応)

<現状の課題>

- 緑地の西北に位置するサッカー場であり、利用者は多いが、緑地の賑わいにつながっていない。



6. 各施設の現状と課題 ⑦テニスコート

- 平日／休日、昼間／ナイターともに、利用率が高い施設である。

<現状の利用者数>

		平成28年度			平成29年度			平成30年度		
		利用可能 コマ数	利用実績 コマ数	利用率	利用可能 コマ数	利用実績 コマ数	利用率	利用可能 コマ数	利用実績 コマ数	利用率
昼間	平日	7,814	7,554	96.6%	8,752	7,506	85.8%	10,970	9,721	88.6%
	休日	4,296	4,296	100.0%	4,600	4,134	89.9%	5,530	5,224	94.5%
ナイター	平日	1,951	1,892	97.0%	2,184	1,852	84.8%	2,210	1,927	87.2%
	休日	872	872	100.0%	910	761	83.6%	930	823	88.5%



<管理状況>

- 日常管理については業務委託。(その他、施設補修工事等は市が対応)
- 専用使用料1面1回(1時間以内)750円、照明施設専用使用料1面1回(1時間以内)800円で、2,496万円の使用料収入がある。

<現状の課題>

- 稼働率が高く、人気の運動施設である。
- 緑地内に、テニスコート利用者が、利用の前後に集まり・歓談し、軽く飲食する等の場所がなく、園外のファミリーレストランが頻繁に活用されている。(事業者ヒアリングより)。

6. 各施設の現状と課題 ⑧多目的広場／運動広場

- 多目的広場は、予約利用をしていない(ただし、日程調整会議で決定される大会等の日程は除く)。
- 運動広場は日程調整会議や一般利用による予約制度をとっており、野球、ソフトボール、少年野球、少年・少女サッカー等に利用されている。

<現状の利用者数>

不明

<管理状況>

日常管理については業務委託。(その他、施設補修工事等は市が対応)

<現状の課題>

- 利用者数、稼働率等が把握されていないものの、イベント等のない平日は、写真のように自由な利用だけで、閑散としている。



6. 各施設の現状と課題 ⑨釣り池

- ヘラブナを中心とした釣り場である。2匹まで持ち帰り可能で、ルアーやリールの使用はできない。
- 併設する売店で釣り餌等を販売している。
- 年間の利用者数を概算の稼働日数で除すと、平均50～60人/日の利用がある。

<現状の利用者数>

H28年度	H29年度	H30年度
17,172人	13,155人	11,907人

<管理状況>

- 主に(公財)川崎市公園緑地協会に管理委託
- 大人750円/回、子ども200円/回の利用料で、年間1,347万円の使用料収入がある。

<現状の課題>

- 広大な釣り池の面積(33,000㎡)のうち、釣り場として利用されているのは、一部に限っている。
- 釣り池の近くのレストハウスは老朽化しており、魅力に乏しい。
- 現在の釣り池は、閉鎖的な空間であり、水辺を活用した憩いの場、賑わいづくりに活用していない。



6. 各施設の現状と課題 ⑩催し物広場

- 正面入り口にあるジャリ敷きの広場。
- 消火栓設備が整備されており、消防団の訓練等が頻繁に行われている。その他、イベント等で利用されている。

<現状の利用者数>

不明

<管理状況>

- 直営管理。

<現状の課題>

- 利用者数、稼働率等が把握されていないものの、イベント等のない平日は、写真のように自由な利用だけで、閑散としている。



6. 各施設の現状と課題 ⑪四季園、21世紀の森

- 四季園は、池、流れ、水車小屋、四阿などからなる。
- 21世紀の森は、寄贈樹木などで植栽された森で、市民ミュージアムへの道(散策路)が通っており、寄贈された10点の彫刻展示がある。

<現状の利用者数>

不明

<管理状況>

- 四季園は、市民ミュージアムの指定管理者により管理している。
- 21世紀の森は、とどろきアリーナの指定管理者及び市により区域を分け、管理している。

<現状の課題>

- 樹木が鬱蒼と茂っている感があり、ふるさとの森と合わせて、樹木地帯があるものの、管理者が同一でなく、全体的な魅力に乏しい。
- 彫刻、園路、建物も老朽化が著しい。

<21世紀の森>



<四季園>



6. 各施設の現状と課題 ⑫ふるさとの森

- 寄贈樹木、その他により植栽された森。園路、野外卓、ネット遊具、コンビネーション遊具などが配置されている。

＜現状の利用者数＞

不明

＜管理状況＞

- 直営管理。



＜現状の課題＞

- 樹木が鬱蒼と茂っており、見通しが悪いところもある。
- 遊具は古く、閑散としている。



6. 各施設の現状と課題 ⑬ 駐車場

- ・ 緑地内には等々力緑地南駐車場のほか、市民ミュージアム前駐車場及び等々力緑地東駐車場があり、それぞれ100台、323台、158台のスペースを有している。硬式野球場改築に伴い中央駐車場が廃止され、緑地全体で駐車場が不足している。
- ・ 府中街道側に位置し、正面入り口近くにある南駐車場が最も稼働率が高い。
- ・ 土日祝日、特にプロスポーツチームの試合日については、駐車場は概ね満車となっている。平日との繁閑差が大きい。

<現状の利用者数>

駐車場	H28年度	H29年度	H30年度
等々力緑地東	23,703台	20,598台	21,697台
等々力緑地南	61,953台	61,563台	56,893台
市民ミュージアム前	86,960台	93,002台	95,917台

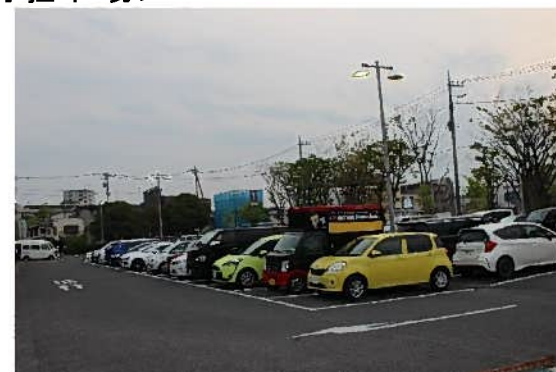
<管理状況>

- 設置管理許可により(公財)川崎市公園緑地協会が管理運営を行っている。

<現状の課題>

- 現状、市民ミュージアム前駐車場において、Jリーグ等の試合時は、1回500円と低廉であることから、早朝からサポーターの車両で満車となってしまうなど、他施設の利用者が駐車できない状況となっている。(Jリーグ等試合時の定額制については、本年7月から廃止予定)
- 駐車場の空き情報が発信されていないため、空き駐車場を求めて周辺を車が回遊するなど、渋滞の原因になっている。

<南駐車場>



<市民ミュージアム前駐車場>

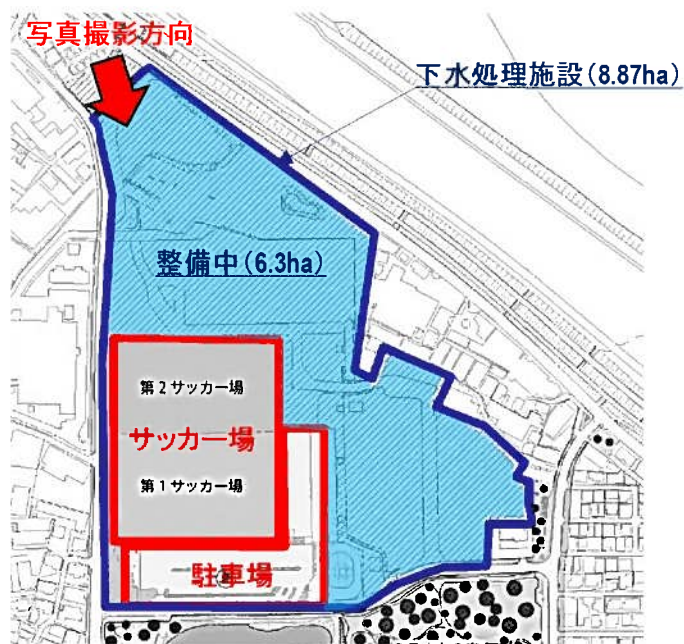


6. 各施設の現状と課題 ⑭ 下水処理施設上部

- 都市計画緑地(56.4ha)のうち、下水道事業区域(8.87ha)を、重複して都市計画決定している。
- 下水処理施設の整備が完了した範囲については、駐車場、サッカー場として利用している。
- 下水処理施設を現在整備している残りの(6.3ha)については、令和6年度末の完成を予定しており、令和7年度以降に公園として整備する。
- 平成6年にこのエリアに本格的少年野球場設置(2面)に関する請願が全会一致で採択されている。
- 市議会を通してドックラン、テニスコートなど様々な施設の設置要望がある。

<荷重条件>

埋戻土荷重のほかに維持管理車両の通行を想定し、車両荷重等を考慮している



下水処理施設の施工状況

<課題>

整備の詳細は決まっていないが、少年野球場など様々な設置要望がある。
下水処理施設が地中にあるため、整備内容に制限がある。

6. 各施設の現状と課題 ⑮公文書館／会館とどろき

- ・ 正面広場に隣接する公共施設及び公的施設。
- ・ 都市公園法の区域外に設置されている。

■ 公文書館

・ 設置目的

市民の生活の向上及び文化の発展に資するため、歴史的文化的価値のある公文書及び資料類を適正に保存し、かつ、有効に活用するとともに、市民生活の場に関する情報を中心とした統合的な情報公開を推進することを目的とする。

・ 開設：昭和59年10月1日

・ 構造：鉄筋コンクリート造。地下1階、地上3階建て

・ 敷地面積：3,783.20㎡

・ 延床面積：2,451.38㎡

・ 利用者数：【平成29年度の利用実績】

行政使用閲覧131件、公文書公開情報提供等12件

古文書閲覧49件、学習1,529件、職員による公文書閲覧607件

その他1,599件、合計3,927件

<課題>

・ 建物の老朽化、書庫スペースが不足

■ 会館とどろき（川崎市立学校教職員互助会館）

・ 設置目的

川崎市立学校教職員の福利厚生を目的に設立された施設。教職員及び市民利用が可能で、貸室、宴会利用の他、各種講座の開催を行っている。

レストランが併設されている。

<課題>

建物の老朽化

<公文書館>



<会館とどろき>



7. その他の課題

(地歴に伴う土壌リスクの顕在化)

-大規模施設の整備に伴い、廃棄物混じり土の処分等に多額の費用が発生。



1946年頃

砂利の採掘が完了し、7つの池が広がっていた



2007年頃

再編整備計画策定時の等々力緑地



2012年・2016年

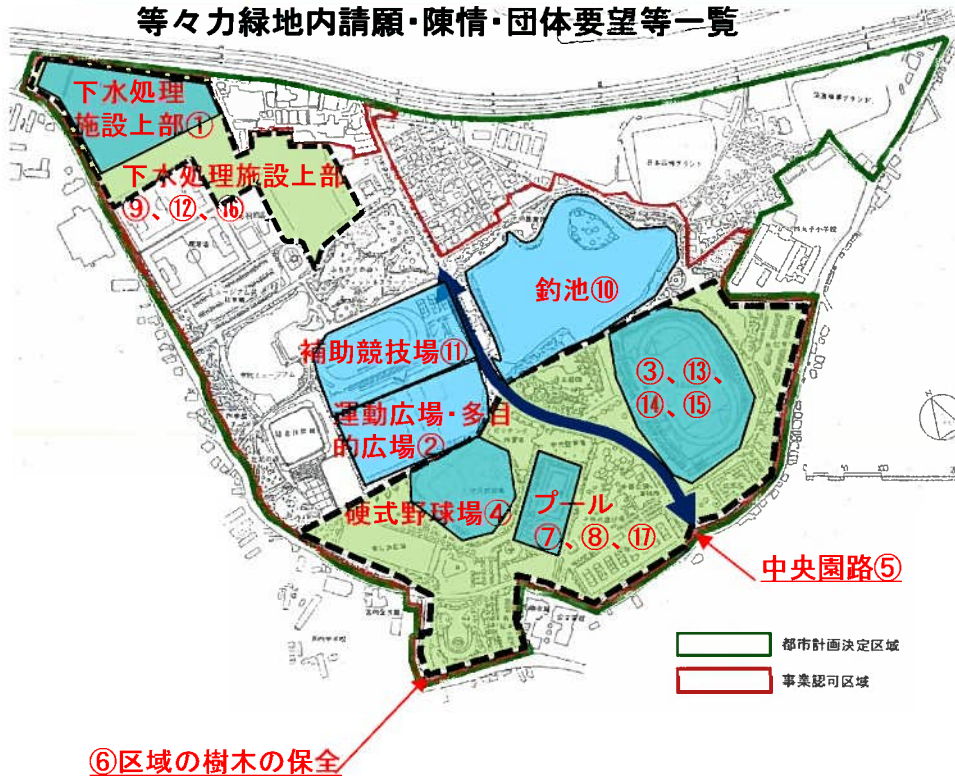
陸上競技場や硬式野球場の改築工事中に
廃棄物混じり土の処理が課題へ
(写真は硬式野球場改築工事中)

7. その他の課題

請願・陳情・団体要望等の状況

等々力緑地については、市街化の進む本市において貴重なオープンスペースであることから、様々なスポーツ施設等の設置要望等が寄せられており、再編整備計画策定後においても多くの陳情・要望が寄せられている

等々力緑地内請願・陳情・団体要望等一覧



- ・廃道した中央園路については、近隣町会から代替園路の早期整備を求められている。
- ・団体要望はないが、3×3、BMX、スケートボードなど、新たなスポーツの拠点整備を求められている。

請願・陳情・団体要望等

番号	提出月	請願・陳情・団体要望名	議会での取り扱い	対応状況
①	平成6年11月	中原区等々力公園内下水処理施設上部の本格的な少年野球場設置に関する請願(請願第136号)	全会一致で採択	—
②	平成20年11月	等々力第1・第2運動広場を整備後も野球場として利用できるようお願い	継続審査	—
③	平成20年11月	等々力陸上競技場の全面改修及びその周辺の施設・環境の速やかな改善に関する請願(請願第48号)	全会一致で採択	一部完了(メインスタンドH27.3供用開始)
④	平成20年12月	市内唯一の硬式野球場である老朽化した等々力球場の全面改修に関する請願(請願第59号)	全会一致で採択	完了予定(R2.10供用開始予定)
⑤	平成24年3月	「等々力緑地再編整備実施計画」と「等々力陸上競技場整備計画」に伴い廃止予告された、「等々力地区幹線生活道路を存続させること」に関する請願(請願第41号)	継続審査 →不採択	中央園路は道路としては廃道(H24.10)現在は、リーグ開催時等通行止め
⑥	平成24年5月	等々力緑地の木々の伐採に関する陳情(陳情第72号)	全会一致で採択	対応中(樹木の保全や移植など)
⑦	平成24年7月	等々力緑地再編整備実施計画書の等々力プール廃止撤回及び存続に関する陳情(陳情第87号)	継続審査 →取り下げ	—
⑧	平成25年3月	等々力緑地の再編に伴い廃止される等々力プールの速やかな代替措置に関する請願(請願第60号)	全会一致で趣旨採択	—
⑨	平成25年5月	富士見周辺地区整備計画に伴うテニスコートの新設を求める陳情(陳情第116号)	継続審査	—
⑩	平成25年9月	等々力緑地再編整備における等々力緑地釣池に対する要望	—	—
⑪	平成26年11月	等々力補助競技場の改修についての緊急要望	—	完了予定(R2.4供用開始予定)
⑫	平成27年9月	富士見周辺地区整備計画に伴うテニスコートの新設を求める陳情(陳情第29号)	継続審査	—
⑬	平成27年11月	川崎市等々力陸上競技場におけるラグビー競技使用に関するお願い	—	一部完了(ラグビーポスト設置済H30.3)
⑭	平成28年8月	等々力陸上競技場の座席について(ACL要望)	—	一部完了(一部座席の交換)
⑮	平成29年3月	等々力陸上競技場第2期整備に関する請願書	—	検討中
⑯	令和元年10月	富士見周辺地区整備計画に伴うテニスコートの新設を求める要望書	—	—
⑰	令和元年10月	等々力緑地屋内外プール設置に関する請願	全会一致で採択	—

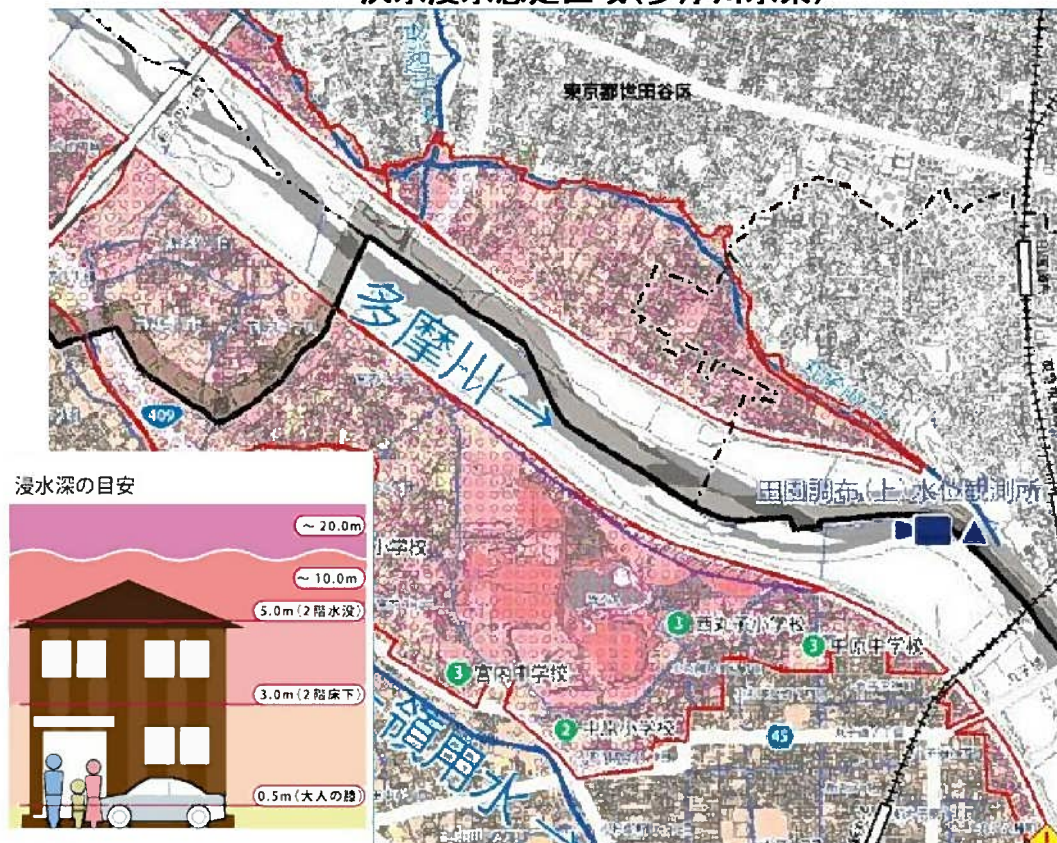
* 継続審査については、議員任期の満了に伴う審査未了

7. その他の課題

(自然災害リスクの高まりを踏まえた防災対策の充実)

- ・令和元年東日本台風に伴う補助競技場等の冠水や市民ミュージアム等の浸水被害を踏まえるとともに、地震や火災時の広域避難場所や、警察等の広域活動拠点として緑地の役割を検証するなど、防災対策の充実に向けた検討を進める必要がある。

洪水浸水想定区域(多摩川水系)



等々力緑地の地盤高さについて

